

## B ドイツ語 1 第 3 回 接続法Ⅱ式

範囲: 文法教科書 S. 72-73 (CD トラック 90-92)

### 文法教科書第 18 課. 接続法 (承前)

#### 教科書 3. 接続法の用法 (承前) (S. 72)

教科書の補足説明

・ **接続法Ⅱ式**の代表的な用法は、**非現実話法**である。英語の仮定法過去、仮定法過去完了に対応すると考えてよい。

・過去の事実に対する非現実話法の場合、条件節、帰結節ともに接続法Ⅱ式の完了形を使用するが、帰結節には würde+完了形を使用するやり方もある。

(例) Wenn ich gestern in München gewesen wäre, hätte ich Spiel A gegen B gesehen.

→ Wenn ich gestern in München gewesen wäre, würde ich Spiel A gegen B gesehen haben.

・接続法Ⅱ式による非現実話法の公式は以下の通り。

	条件節	帰結節
現在の事実に対して	Wenn ... 接続法Ⅱ,	接続法Ⅱ 主語 ... würde 主語 ... 不定詞
過去の事実に対して	Wenn ... 過去分詞 wäre / hätte	wäre / hätte 主語 ... 過去分詞 würde 主語 ... 過去分詞 sein / haben

・ **als ob+接続法Ⅱ式**<sup>1</sup>については、英語の *as if* ないし *as though* と考えてよい。

・ **外交的接続法**は、日本語の敬語のような感覚で丁寧な依頼などに使われるほか、断定を避けるための婉曲話法としても用いられる。haben の接続法Ⅱ式の hätte は「～をください」の意味で店などでよく用いられ、副詞の gern (gerne) とよく一緒に使われる。

(例) Das wäre das Beste.

それが一番いいでしょう。

Das sollten Sie nicht sagen.

それは言うべきではないでしょう。

\* 教科書には「丁寧な依頼」と説明してあるが、それ以外でも、社交上断定を避けるための婉曲表現一般にも接続法Ⅱ式を使う。実際にドイツ語で生活していると、この形式は実に頻繁に用いる。

Das dürfte auch wahr sein.

<sup>1</sup> Hans Vaihinger, Die Philosophie des Als Ob (かのようにの哲学) を題材とした小説に、森鷗外「かのやうに」がある (新潮文庫『舞姫・阿部一族』などで読める)。

それも本当なのでしょう。

## 教科書 Übung 2

教科書の補足説明

・定動詞を文頭に置いて **wenn** を省略するやり方は、別に接続法 II 式でなくとも、直説法の条件節に対しても使用できる。これは主に文章語として用いられる。

(例) Wenn das Wetter schön ist, machen wir einen Ausflug.

→Ist das Wetter schön, machen wir einen Ausflug.

### 連絡先など

講師のメールアドレス: [tokan@nifty.com](mailto:tokan@nifty.com) 講師のウェブサイト: <http://hasegawa.la.coocan.jp/>

授業のウェブサイト (進捗表示、配付資料あり): <http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/>